

令和 7 年 2025 年						
日	月	火	水	木	金	土
	1 先負 たつ	2 仏滅 み	3 大安 うま	4 赤口 ひつじ	5 先勝 さる	6 友引 一粒万倍日 とり
7 先負 大雪 いぬ	8 仏滅 こと納め 針供養 一粒万倍日 る	9 大安 一粒万倍日 ね	10 赤口 うし	11 先勝 三りんぼう とら	12 友引 う	13 先負 たつ
14 仏滅 み	15 大安 うま	16 赤口 ひつじ	17 先勝 伊勢神宮月次祭 さる	18 友引 とり	19 先負 いぬ	20 大安 一粒万倍日 る
21 赤口 一粒万倍日 ね	22 先勝 冬至 うし	23 友引 三りんぼう とら	24 先負 う	25 仏滅 たつ	26 大安 み	27 赤口 うま
28 先勝 ひつじ	29 友引 さる	30 先負 とり	31 仏滅 いぬ			

師走

〔しわす〕 令和 7 年 12 月

一般に先生のことを「師」といい
ますが、一年の区切りの忙しい月で、
人にもものを教える先生までも走る月
という意味があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

神道は日用の間にあり

度会延佳・陽復記

今月のことば

神道は日用の間にあり

度会延佳・陽復記

「玉串を持、新語唱る事等は、祭庭などの儀式、
是も亦神道の一事にして尤も重しとする所なり。
されど此事計を神道と思ふは、天を管の穴より覗
きたるに等し。管の穴より見たるも、天にてなき
にはあらねど、そのみにては余りにせばき事也。
それ神道と云は、人々日用の間にありて、一時と
して神道にあらずと云事なし」(慶安三年一六五〇)
陽復記の一節である。

神の道は特殊な道でなく、毎日の行為が、神の
み心に叶つてゐるか、どうかを反省し、精進する
以外にない。

同人著太神宮神道或問には、「日本国に生れた
る人は、心に得て、身に行はでは叶はざる道：
日用の間、神道ならざといふ事なし」とあるのも、
同義である

(神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

季節のまつり

松迎 正月様迎えの
「門松が立つ」

新しい年の千支にあたる男「年木樵」
が十二月十三日、恵方の山に入って門
松用の松の木を伐ってくることを松迎
えといひます。農耕民族である日本人
は、一年中の耕作と収穫を守る神様を、
「歳神様」、「お正月様」などと呼び、正
月にはこの神様が
門松を伝つて降臨
すると信じられて
いました。これが
門松の起こりです。



年の
あわただしい年末に
「市が立つ」

年の暮れ、各所に正月に関係のある
飾り物や羽子板、縁起物などを売る
「年の市」が立ちます。江戸時代からさ
かんになったもので、参詣人が集まる
社寺の境内や門前などに立つようにな
りました。年末になると各地に年の市
が立つて、周辺の農漁村などから、正
月の準備のために多くの人々が集まっ
てきます。なかには、自分たちが作っ
た飾り物、ほうき、縁起物などを売る
人もいて、農漁業の収入を補い、正月
準備のために貴重な収入源となってい
ました。

東北地方などの年の市は、年末ギリ
ギリになってから立つので「詰市」と
呼び、市によっては、売れ残ったもの
を捨て値で売る事から「捨市」と呼ば
れています。

縁起・縁起物とは？

縁起には三つの意味があります。
第一は、精神的な働きを含む一切の
ものは、種々の原因と縁によって生ず
るという意味です。

第二は、社寺などの成立の由来や神
仏の霊験の伝説、またはそれらを記し
た物のことをいいます。

第三は、吉兆のきざし、前兆の事を
いいます。ちょっとした出来事を吉兆
のきざしと見て、朝に茶柱が立てば
「縁起がいい」といって喜び、正月早々
病氣や怪我の話は「縁起でもない」と
いって避けるように、いちいち気にす
ることを「縁起をかつぐ」といいます。

「縁起を祝う」というのは、よいこと
があるようにと祝いをして祈ることです。
「縁起物」はよいことがあるよう
にと、縁起を祝うための品物です。

正月を迎えるにあたり、すす払いを
して、新しい神札を祀り、注連飾りを
掲げて祈り、よきお年をお迎え下さい。

異体同心

外見はことなっているものの、
内面は同じ心であること。



山茶花(さくらんぼ)

参考文献
『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)

二十四節気

【大雪 たいせつ】…七日

旧暦十一月子の月の正節で、もう山の峰々
は積雪におおわれ、平地も北風が吹きすさん
で、いよいよ冬將軍の到来が感じられます。

【冬至 とつじ】…二十一日

旧暦十一月子の月の中気で、この日、太陽
が赤道以南の南半球の最も遠い点に行くため
北半球では太陽の高さが一年中で最も低くな
ります。そのため昼が一年中で一番短く、夜
が一番長くなる極点となります。そしてこの
日から一陽来復して徐々に日脚はのびていき
ます。

六曜・選日

【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】…万事凶、患は長びくおそれあり
【大安】…何事をするにも吉の日、大吉日
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉
【選日の吉凶】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日
【三りんぼう】…出資・投資・購入、新規事業開始
【一粒万倍日】…婚姻は吉、借りる、離別は凶

七十二候《12月》

冬至

初候・乃東生(なつかれくさしやうせい)
次候・夏枯草が芽をだすころ
末候・鹿の角が落ちるころ

大雪

初候・閉塞成冬(そらさかへんふゆとなる)
次候・熊が穴(くまあな)に入(い)るころ
末候・鰻魚群(うなぎぐん)のうめりあがる
鮮が群れ(さけのぐん)となって川を遡上(さかのぼ)るころ

安産祈願 12月の戌の日

7日(日)・19日(金)
31日(水)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をして
あります。神社にお問い合わせください。



祝祭日には
国旗を掲げましょう